

## 外国語でなく、なぜ「やさしい日本語」なのか ～在住外国人への情報伝達に関する研修会に参加して～

(財)自治体国際化協会ニューヨーク事務所所長補佐 大野 鮎子 (堺市派遣)

### はじめに

2012年2月16日、17日の2日間、長野県飯田市において、同市主催による、災害時における「やさしい日本語」研修会が開催された。一般向けに行われた初日と担当者向けに行われた2日目の研修に、のべ115人が参加し、「やさしい日本語」の基礎を学んだ。

災害時における在住外国人への情報伝達として、「やさしい日本語」が今なぜこれほど注目されているのか検討しながら、2日間にわたる研修の様子を報告する。

### 研修会① 一般公開「やさしい日本語」講演会

一般向けに行われた初日は、弘前大学人文学部の佐藤和之教授を講師として約70人の参加者が「やさしい日本語」の基礎を学んだ。

この講演会では、「やさしい日本語」についての概要と発災から72時間を「やさしい日本語」で伝える方法などが講義された。

72時間というのは、行政やボランティア団体など外部からの援助が始まるまでの時間である。これ以降は日本語に

不慣れな外国人に確実に情報を伝えることができる多言語(母語)での情報提供が必要とされる。



災害が起こったときに外国人を助けるためのマニュアル(写真右)を手説明する弘前大学人文学部の佐藤和之教授(同左)

### 「やさしい日本語」の特徴

- ① 小学校2・3年生で習う簡単なことばを使用(日本語能力検定試験の3・4級レベル)
- ② 1文が短い(ひらがなだけで書くと24字以内)
- ③ 災害時によく使われることばや知っておいた方がよいことばは説明を加え、そのまま使う(「津波」、「避難所」、「余震」など)
- ④ カタカナ外来語はできるだけ使わない(「デマ」など)
- ⑤ ローマ字は使わない
- ⑥ 擬態語や擬音語は使わない
- ⑦ 使用する漢字や使用量に注意し(1文あたり3、4字)、全てにルビを振る
- ⑧ 名詞化された動詞は分かりにくいいため、できるだけ動詞文にする
- ⑨ あいまいな表現は避ける
- ⑩ 二重否定は避ける
- ⑪ 文末表現はなるべく統一する
- ⑫ ことばのまとまりを認識しやすいよう、短いポーズを多く用いる

### 言い替え例

普通の日本語	やさしい日本語
給水車	水をくばる車
迂回する	違う道を行く
津波	津波、高い波
避難所	避難所、逃げるところ
デマ	うその話
行方不明	どこにいるかわからない人

### 研修会② 実務担当者研修会

2日目は、実務担当者45人が集まり「やさしい日本語」の具体的な活用について実習ワークショップが行われた。はじめに、(特活)多文化共生マネージャー全国協議会の時<sup>とき</sup>光氏から「外国人住民の立場から災害時のやさしい日本語について考えてみよう」と題した講演があった。その中で時氏は、外国人の視点から文化や習慣の違いなど背景となる事情とともに「日本語」と「国語」

の違いについて説明された。なぜ避難所において日本人と外国人の間に衝突が起きてしまうのか、その原因の一つは日本で生まれ育った人の持つ「常識」とそうでない人の持つ「常識」が大きく異なっていることにある。そこで、時氏は災害時こそ「日本語」をやさしく使うことの大切さを語り、そのためには「思いやりの心」が必要であるとまとめた。

またその他に、東日本大震災に際して設置した「多言語支援センター」での活動報告や、東



時氏は外国人の立場から、災害時における「やさしい日本語」についてご自身の思いを語られた

日本大震災でボランティアとして活躍した外国人住民の紹介など実に内容に富んだ講演であった。

次に、初日の研修会で学んだ「やさしい日本語」を、実際の現場で活用できるように、前日に引き続き弘前大学の佐藤教授による講義が行われた。

はじめに弘前大学人文学部社会言語学研究室のホームページの紹介があり、「やさしい日本語」に関するさまざまな情報を知ることができた。

分かりやすい佐藤和之教授の研究室ホームページ



ココをクリック

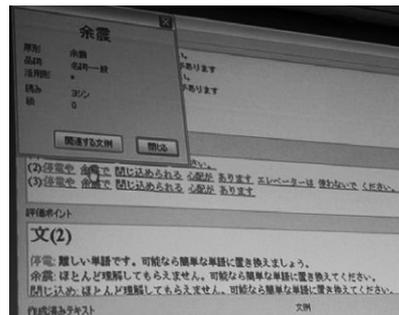
ホームページ記載内容の一例

- 「やさしい日本語」パンフレット (PDFファイル)
- 「やさしい日本語」を作るときに有用な資料
  - ◇ポスター集
  - ◇掲示物用イラスト集
  - ◇ラジオ・広報車・防災無線などの放送用案文 (時系列案文、情報内容別案文)
  - ◇「やさしい日本語」の作成ルール
  - ◇「やさしい日本語」版災害基礎語彙100
  - ◇「やさしい日本語」語彙表
  - ◇「やさしい日本語」化支援システムやんしす (外部リンク)
- 災害が起こったときに外国人を助けるためのマニュアル

- 「やさしい日本語」の解説 (PDFファイル)
- 「やさしい日本語」作成のためのガイドライン
- 「やさしい日本語」におけるやさしさの基準について
- 外国人への情報伝達と「やさしい日本語」化支援100日間の記録

このホームページ内に掲載されている『「やさしい日本語」化支援システムやんしす』をダウンロードすると、誰でも簡単に「やさしい日本語」を作ることができる。

研修会では、参加者が4、5人のグループになり、



「やんしす」を実際に使って文章作成を行った。



「やんしす」画面とワークショップの様子

はじめに通常の日本語文を入力すると、難しい言い回し部分が赤やピンク色で示され、注意点や改善点が別枠に表示される。その注意書きに従って赤やピンクの文字がなくなるまで文章を直していくと自動的に「やさしい日本語」による文章が完成する。

非常に簡単に、しかも楽しく文章を作成することができる『「やさしい日本語」化支援システムやんしす』は、今後ますます需要が高まり、活用されていくと確信する。

なぜ外国語でなく、「やさしい日本語」なのか。その答えは、弘前大学人文学部社会言語学研究室のホームページを訪れるといくつか説明がされている。私が考える一つの答えは、「やさしい日本語」が外国人にとって分かりやすいだけでなく、小さい子どもや高齢者にも分かりやすい表示方法であるということだ。在住外国人を含めさまざまな人が共に生きる多文化共生社会の推進のため、「やさしい日本語」が今後果たしていく役割に注目していきたい。